2022年1月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第540号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体136円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

地方出版文化功労賞を受賞した ―――――――― ///☆★☆

『くまもとの戦争遺産　戦後75年　平和を祈って』について

文・熊日サービス開発出版部　今坂　功

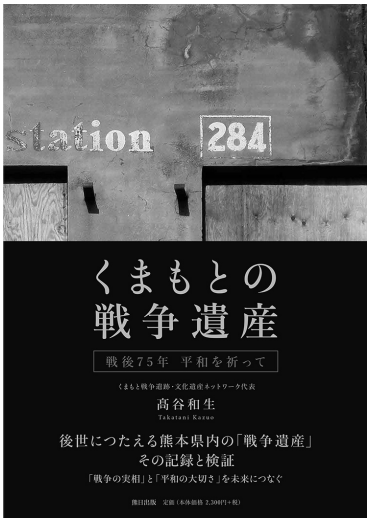
地方出版の優れた作品を発掘し、顕彰する「第34回地方出版文化功労賞」（主催：ブックインとっとり実行委員会）の大賞に相当する「功労賞」に、2020年8月、弊社から出版した『くまもとの戦争遺産　戦後75年　平和を祈って』が選ばれました。また、2021年3月には、熊本日日新聞社主催の第42回熊日出版文化賞も受賞しています。

この本は、熊本県内の戦争遺産を網羅的に調査し、旧陸海軍飛行場、本土決戦施設、空襲・航空資料などに分類し、その建設から現在までを考古学の視点・方法論でまとめたもの。著者は「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」代表の高谷和生さんです。

受賞作は、2010年に高谷さんを中心とした「熊本の戦争遺跡研究会」で出版した『熊本の戦争遺跡』に続くもの。県内には陸海軍の飛行場関連施設や、砲台など700件以上の戦争遺跡が点在しており、その中には、「軍都」と呼ばれた熊本市の歴史を伝える遺構や特攻機の中継基地となった飛行場跡なども含まれています。高谷さんはその後の10年余も、県内の戦争に関する遺構を中心に、情報があれば現地に足を運び、資料があれば丹念に読み込み調べ上げられました。

それらの原稿がほぼ揃った段階で、弊社に出版のご相談があり、それから編集作業に取りかかりました。最初の顔合わせから完成まで、かかった時間は8カ月余りでした。

終戦から“75回目の夏である2020年の8月”には発刊、書店店頭に並べたいとの思いで、編集担当者と高谷さんの二人三脚で作業を進めました。その間、高谷さんには色々と無理を言いました。時には編集方針を巡り、言い合いになったこともありましたが、それも良いものを作ろうというお互いの姿勢から生まれたものだと思っています。



『くまもとの戦争遺産　戦後７５年　平和を祈って』高谷和生著・熊日出版制作・発売／Ａ４判・定価（本体価格2300円＋税）／ISBN978-4-908313-65-3

今作では、前作の熊本市内の軍施設、飛行場、軍需工場、奉安殿、慰霊碑の内容を刷新し、新たに航空資料、空襲概要や不発弾などの内容を加えてまとめられています。

本書は、「第１章　軍都熊本」「第２章旧陸海軍飛行場」「第３章　本土決戦軍施設」「「第４章　県下の軍工場・軍需工場」「第５章　奉安殿・奉安庫」「第６章　慰霊碑　他」「第７章　県下空襲・航空資料」「第８章　連合軍捕虜収容所」「附章」と全部で９つのジャンルに分けられており、幾つかの章を簡単に紹介させていただきます。

「第２章　旧陸海軍飛行場」では、県内にあった14カ所の飛行場について、それぞれの概要、空襲を受けた際の記録、写真や図面による施設の紹介など詳しく記述してあります。第4節熊本飛行場では、2019年12月に米海兵隊撮影の16ミリカラー画像が新たに確認されたとの記述があり、熊本飛行場の第百七十戦隊重爆撃機「飛龍」の列機のカラー画像は口絵に掲載されています。第７節の陸軍隈庄飛行場（熊本市南区）には、日本を代表する俳優である故三船敏郎さんが「演劇」を披露した際の写真が掲載されています。三船さんは敗戦を同飛行場で迎えたとのことで、カメラが得意な三船さんが出撃前の特攻隊員の遺影を撮る仕事にも従事していたというエピソードも興味深いものです。

「第７章　県下空襲・航空資料」で

熊本飛行場での第百七十戦隊重爆撃機「飛龍」列機

は、熊本での空襲状況・被害の歴史について、新たに発見された資料を中心にまとめてあります。特に1945年8月10日、米極東航空軍第5航空団による、熊本市街地への「第2回熊本大空襲」の新資料として確認された16枚の写真のうち4枚が掲載されており、空襲の生々しい状況が分かります。この第2回空襲では、第7航空団が先行し、次いで第5航空団が、当初は「M47A2焼夷弾」や「M69からなるE46集束焼夷弾」を使用。さらに焼夷弾の着地空白域を目標に、後半には軽爆撃機（A-20・A-26）や戦闘爆撃機（P-38・P-47）が「ナパーム弾攻撃」を行ったものと考えられています。写真は、「熊本市中央区大江への空襲」「熊本市立商工學校への攻撃と延焼」「井芹川隣接と想定される工場へのナパーム攻撃」等、白黒写真ですが、炎と煙に包まれた当時の状況がはっきりとわかります。

「第8章　連合軍捕虜収容所」では、熊本県内にあった捕虜収容所2カ所について記述してあります。熊本市の健軍にあった福岡捕虜収容所第一分所のところでは、収容所の歴史、変遷に加え、食事や衣服、衛生設備、労働現場などの項目について元アメリカ人捕虜2人の1947年4月4日の尋問調書からの抜粋ですが、当時の状況がよくわかる内容になっています。また、芦北町田浦にあった福岡捕虜収容所第六派遣所のところでは、収容されていたマッキントッシュ氏の手記からの引用で、「ほとんどが炭素棒を積んだトロッコを押す作業だ。すごく汚れる作業で、とても寒く空腹だ。長ズボンの支給を望んだが何も与えられなかった」など当時の収容所内の状況がわかる文章も掲載されており、これに「捕虜達と一緒にトロッコを押しました。家が百姓だったので、から芋をポケットに詰めてきてこっそりあげていました。『サンキュー』といって拝むような格好をしましたね。ある時、監視員に見つかって喧しく叱られましたが、その後も隠れてあげました」（当時15歳）などの地元の人達の証言なども交えて記録されています。遺構としては残らない戦時中の生の声についても、「今残しておかないと消えてしまう」のではという思いで、資料などから「加害の歴史」を調べ上げて貴重な記録としてまとめてあります。

最後の「附章」には、「県内の戦争遺跡資料館」などの紹介、「くまもと戦争遺産ガイドマップ」や「くまもとの戦争遺産（戦争遺跡・遺構・遺物等）一覧」のデータも掲載されており、これらの「戦争遺産」に興味を持った人が現地を訪ねるためのガイドブックとしての一面も持っています。

なお、表紙の写真は「東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所（通称＝荒尾二造）」工場地帯跡に残る変電所建物壁面に描かれている「接収名・番号」の部分をトリミングしてデザインしてあります。

高谷さんは、今後の課題として、①「加害」の戦争遺跡や遺物、戦時資料などを調査し、東アジアの視点で「加害」をもう一度見つめなおす。②空襲被害など多様な戦争体験・戦時証言を聞き取り、家族・肉親などの身近な「被害」を見つめなおす。③「戦時資料（証言を含む）」を整理し、デジタル化から公開・活用にもってければと思う。④啓発用リーフレットの発行と無償配布（同ネットワーク）などを考えられており、最終的には「くまもと戦争遺産デジタルミュージアム」開設も検討されています。

付け加えていうならば、近代遺跡としての戦争遺跡、その保存対策も必要だと思われます。これについては行政を含めた大きな輪が広がってもらえればと思います。また、これらの「戦争遺跡」を通し、平和、人命の尊さ、人間の愚かさなどを感じてもらえるような取り組みに広がって欲しいと希望するばかりです。

さらに地域の学校などでの「出前平和講座」や、「くまもと戦争遺産をめぐる旅」などで、保護啓発活動に見学ツアーを開催するなど、「戦争という大きな暴力をなくそう」と啓発活動も積極的に行われています。

熊本市南区川尻の緑川橋への銃撃の様子。
1945年ガンカメラにて撮影。国崎潤氏提供

八代市で発見された「流星」の風防部分

菊池飛行場の「花房給水塔」2008年撮影

最後に、地方出版について述べさせていただくと、現在、少子化や高齢化が進行する中で、都会では、人々の疎外感や孤立感が高まり、地方では地域住民の流出などにより連帯意識が薄れるとともに、地域の個性が失われてきているように思われます。

地方の豊かな自然や言葉，昔から親しまれている祭りや行事，歴史的な建物，地域に根ざした文化活動などは，

それ自体が独自の価値を持つだけでなく，郷土への誇りや愛着を深め，そこに住む人たちの共通のよりどころとなります。そういった各地域において多様な文化の花が咲いてほしいものです。1人1人が心豊かに生きる社会が作られていくために、私たち地方における出版というものが、少しでもお役に立てればと思っています。

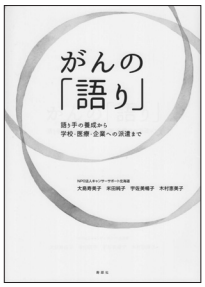
＊

（いまさかいさお・熊日サービス開発出版部）

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『がんの「語り」 －語り手の養成から学校・医療・企業への派遣まで』●大島寿美子他著



近年がん治療の進化は目覚ましいものがあるといわれる。それにも拘わらず、がんによる死亡者数も死亡率も上昇の一途をたどり、この40年間は断トツで死因の第一位に居座って、多くの人を苦しめている。誰しも他人事ではあるまい。

NPO法人キャンサポート北海道はそうした中で、2015年から「がんの語り手」を養成し、派遣する事業を起こし、2017年には、受講生の発案で28人が実名で体験談を綴った『北海道でがんとともみ生きる』（寿郎社）を刊行した。がんに限らず病を語ることは、自分の身体に起きたことを理解し、困難にどのように対処するのか、病気を自分の人生にどのように位置づけるかを教えてくれる。医療の専門家たちもこの重要性に気づき、患者の治療やケアに活用する方法が開発されつつあるという。大変に有用な取り組みだ。

本書は、がんの語り手養成事業の経験を基に、語ることの意味に始まり、伝わりやすい原稿の書き方と語る力の磨き方、学校教育や医療現場、企業研修への活用、さらに、語り手養成と派遣の窓口から経費にいたるまで、多くの事例を交えて、丁寧に解説した手引き書である。巻末には、語りをまとめるために必要な、年表、ストーリボード、原稿用紙のひな形も付されている。がん患者とその家族、医療従事者はもとより、広く、教職員、行政・社会福祉関係者、企業・各種団体の研修担当者にも手に取って欲しい。（飯澤文夫）

◆ 2200円・Ｂ５判・85頁・**寿郎社**・北海道・202111刊・ISBN9784909281395

『最初ギリッとふたを開け』●佐藤理江著

"ショット缶最初ギリッとふたを開けあとはその都度くるくる回す"。"ギリッと"開けられたのはショット缶のふた。こんなインパクトのあるタイトルで読者の心が掴まれる。本書は2002年に第1歌集『虹の片脚』を出し、埼玉県歌人会理事としても活躍する作者の第6歌集。"短歌の壮大な宇宙"という意味が込められていて、中堅歌人の歌集を扱うレーベル"ユニヴェール"シリーズでもある。　"無為無策"から始まり、"むかしの人""入学式""世紀の映像""国事行為"などのタイトルの元に数首が詠まれるという構成。ささやかな日常風景を詠んだものも多いが、社会詠も際立っている。社会詠とは山川草木、花鳥風月などを詠んだ自然詠とは対照的な分野で、人の生活する場である社会と社会に対する認識等を主題とした短歌。"「父さんはまだ小さくて戦争はあれだったんだと終わって知った」""f象徴の根拠は男の体にしか宿らぬという不完全さです"というように戦争や天皇制がテーマのものや、"それほどにオリンピックは素晴らしく「われら」の地位はその次だった"と、東京五輪に関するものまで、鋭い視点が光る。作者の手にかかると何気ない日常も奥底に抵抗の色を帯びているように見えてくる。あとがきでは「なぜ戦争を認めたの？」と質問していた側から、大人になり「なぜオリンピックを認めたの？」と訊かれる側に回って日本の未来を案じている。歌の力強さを存分に感じさせられる。（Y）

◆ 1900円・四六判・143頁・**書肆侃侃房**・福岡・202110刊・ISBN9784863854925

『志縁のおんな －もろさわようことわたしたち』●河原千春著

1925（大正14）年、長野県北佐久郡元牧村（現佐久市）に生まれた女性史研究家・もろさわようこは65年、初の著書『おんなの歴史』を出版して注目を浴びる。続けて、地方の女性史の魁とも言える「信濃のおんな」を66～68年に信濃毎日新聞に連載し、書籍化された同書で毎日出版文化賞を受賞。両書で、地域に暮らす多くの女性に勇気と影響を与えた。また、戦後いち早く天皇制に異議を唱えて、女性の戦争責任を問うと同時に、権力におもねらず市井に生きる生活者の視点から女性と社会の関わりを考察し、78～79年に底辺や辺境、極限状況で働き生きる女性たちの日常の記録を中心に近代を顧みた『ドキュメント女の百年』全6巻をまとめた。

これらの著作活動と実践を通して、地縁、血縁に縛られず、志や生き方への共感で結ばれる「志縁」こそが人を真に解放すると考えたもろさわは、82年に無組織・無会費・無規則、関わりたい人が自由に主体的に考え行ない、営むことを原則とする「歴史を拓くはじめの家」（現「志縁の苑」）を郷里の佐久市に開設。94年には「同うちなぁ」を沖縄に、98年には「歴史を拓くよみがえりの家」を高知市に開設と、活動範囲を広げながら今日に至っている。（和）

◆ 3000円・四六判・346頁・**一葉社**・東京・202112刊・ISBN9784871960830

『東西名品 昭和モダン建築案内 新装版－kankanTrip Japan10』●黒沢永紀・写真/北夙川不可止黒沢永紀・著

今も日本各地に優美な姿を残す1920年代に建てられたモダニズム建築。本書はそんなモダニズム建築を様式・建築家・用途などのテーマに分けて東(東京)と西(京阪神)から代表的な建物を紹介していきます。例えばアール・デコ様式の代表に選ばれたのは、東が旧朝香宮邸、今の東京都庭園美術館です。シンプルな外観に対して豪華な内装なのは知っていましたが、天井灯やラジエーターカバーなど改めて示されると、ここまでこだわったデザインがなされていたのかと目を見張ります。それに対して西は旧大丸心斎橋店。まさに贅を尽くしたという言葉がふさわしい豪華な装飾に満ち溢れています。細部の意匠まで見どころにあふれ、かつて百貨店が特別な外出の場所だったことを示しています。その他にもスパニッシュ様式・小学校・駅などいろいろなテーマでまとめられて、様々なタイプの建物が現れ、飽きさせません。コラムで紹介されるこぢんまりとした看板建築の世界も興味深い。

一方で先述の大丸心斎橋店は取り壊されてしまい、現存しません。貴重な建物を守ることのできない現状の法制度や人々の意識への批判もなされています。それでもモダニズム建築のリノベーション事例も紹介されていますし、現役の建物も数多くあります。本書からはモダニズム建築の見どころだけではなく、それを守る意義や、現役の建物として使い続ける価値のあるものだということについても伝わってきます。

（副隊長）

◆1700円・A5判・175頁・**書肆侃侃房**・福岡・202110刊・ISBN9784863854857

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2021年11月1日～30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆**S－style** 12 vol.684 プレスアート編 298mm × 232mm 140頁 450円 プレスアート［宮城］ 978-4-503-22473-6 21/11

◆**GREEN REPORT** 503 2021年11月号 廣瀬 仁編 A4 191頁 2546円 地域環境ネット［埼玉］ 978-4-909864-35-2 21/11

◆**かまくら春秋** No.618 2021年10月号 伊藤 玄二郎編 B6 105頁 327円 かまくら春秋社［神奈川］ 978-4-7740-0841-7 21/10

◆**Be!** 145号 No.174 今成 知美編 A5 109頁 870円 アスク・ヒューマン・ケア［東京］ 978-4-909116-27-7 21/12

◆**月刊住職** No.276 2021年11月号 矢澤 澄道編 A5 191頁 1364円 興山舎［東京］ 978-4-910408-04-0 21/11

◆**子どもの文化** No.604 2021年12月号 片岡 輝編 A5 47頁 290円 子どもの文化研究所［東京］ 978-4-503-22475-0 21/12

◆**子どもと本** 第167号 青木 祥子編 A5 44頁 590円 子ども文庫の会［東京］ 978-4-906075-72-0 21/10

◆**セセデ** vol.729 2021年12月号 朝鮮青年社編 A4 48頁 482円 朝鮮青年社［東京］ 978-4-503-22472-9 21/12

◆**東京かわら版** No.581 2021年12月号 佐藤 友美編 203mm × 110mm 150頁 545円 東京かわら版［東京］ 978-4-910085-16-6 21/11

◆**俳句四季** No.532 2021年12月号 西井 洋子編 松尾 正光編 B5 160頁 909円 東京四季出版［東京］ 978-4-503-22469-9 21/11

◆**みんなの図書館** No.536 2021年12月号 図書館問題研究会編 A5 72頁 750円 図書館問題研究会［東京］ 978-4-503-22468-2 21/11

◆**おりがみ** No.557 2022年1月号 日本折紙協会編 A4 51頁 728円 日本折紙協会［東京］ 978-4-86540-109-7 21/12

◆**海運** No.1130 2021年11月号 日本海運集会所編 A4 64頁 1200円 日本海運集会所［東京］ 978-4-503-22464-4 21/11

◆**Fuji Airways Guide** No.691 2021年12月号 フジ・インコーポレーテッド編 B5 97頁 364円 フジ・インコーポレーテッド［東京］ 978-4-503-22474-3 21/11

◆**FRAGRANCE JOURNAL** NO.497 2021年11月号 宇野 浩一編 B5 108頁 3000円 フレグランスジャーナル社［東京］ 978-4-503-22467-5 21/11

◆**AROMA RESEARCH** No.88 高橋 由美編 A4 96頁 2000円 フレグランスジャーナル社［東京］ 978-4-503-22477-4 21/11

◆**防衛技術ジャーナル** 489 2021年12月号 防衛技術

縦断」旅日記　舟橋　武志著　A5　161頁　1500円　ブックショップ「マイタウン」［愛知］　978-4-910021-25-6　21/11

◆**Cancer's gift　癌からの贈り物**　梅野　弘樹著　A5　127頁　1000円　アートヴィレッジ［兵庫］　978-4-909569-51-6　21/11

◆**凸凹小咄　日本酒と旬菜**　保古将通著　四六　126頁　1000円　アトラス出版［愛媛］　978-4-906885-44-2　21/11

◆**エモーショナルな東京五輪観戦記**　奥山　篤信著　四六　167頁　3000円　春吉書房［福岡］　978-4-908314-36-0　21/12

【絵本・児童書・学習参考書】

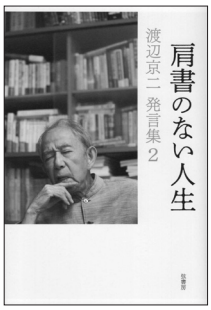
◆**サチコさんのドレス**　桜木　柴乃文　そら絵　235mm×188mm　30頁　1500円　北海道新聞社［北海道］　978-4-86721-042-0　21/11

◆**くらしの中のきほんのしくみ　てこ・ボルト・歯車**　塩浦　信太郎著　B5　31頁　1500円　ポトス出版［東京］　978-4-901979-49-8　21/11

＊

新刊ダイジェスト＜拡大版＞

『肩書のない人生 ー渡辺京二発言集2』
●渡辺京二著



代表作に『逝きし世の面影』や『北一輝』といった著書がある熊本在住の近代史家による最新発言集である。昨年刊行された『幻のえにし 渡辺京二発言集』に続く第二弾となる。御年九十歳。本書に収録されたどの講演、インタビューでも、自分も90歳になってしまって…などと年齢に纏わる話題が枕に付くようになった。

『寄る辺なき現代を生きる』と題された講演では、歳をとって友人や親、夫人、兄妹がなくなったことに言及し、『あなたにとって文学とは何か』では、かつては予備校でマイクなしでも声が通ったのに今では声も出なくなっちゃって、と言う。『コロナと人間』では、渡辺さんが生涯に渡ってその仕事を支えてきた石牟礼道子さんが亡くなってからポカーンとしてしまって気力が衰え、ほとんどに外に出なくなったため足腰が弱り「いきなりじいちゃんになっちゃった」。しかしお仕事ぶりは相変わらず精力的なようでとても衰えなど感じられない。現在、熊本日日新聞で「小さきものの近代」というタイトルで連載記事を書いているが、一回原稿用紙六枚半ほどの原稿が「どんどん書けて書けて」とその充実ぶりをうかがわせる。書くことはもはや大工の熟練工と同じで、苦もなく二時間で書けてしまうとも。この「小さきものの近代」については本書内で何度か言及されているが、上からの革命であった明治維新以降日本近代化の底辺にあって、国家が顧みることもしなかった、表には出てこない普通の庶民の願望、希望、夢に焦点を当てたものだ。「もう死ぬまでやるしかない」というが、昭和二十年の敗戦の日までやるかあるいは関東大震災あたりまでか、とにかく何冊になるか「五、六冊じゃきかないよな」とのことである。

もう一つ本書で語られている構想は、日本文学の主流から「おっ外れている」突発現象である宮沢賢治と石牟礼道子という二人の文学者についての本のことである。こちらも楽しみである。

そしてもちろん今回も石牟礼道子さんについても多くのことが語られている。『道子の原郷』は、特に石牟礼さんについてのエピソードで満ち満ちている。渡辺さんが繰り返すのは、石牟礼さんのような天才の仕事の手伝いができたことは幸運であった、それによって時間がとられたとか、自分の仕事がおろそかになったとかいうことは一切ない、ということである。「一生のめぐりあわせで、幸せなことだったなぁ」と。

あと一つ、本書で何度か言及されていることとして、現在の若い人たちの自殺に渡辺さんがとても心を痛めているということがある。…年をとってからこんなにも世界は美しかったのか、と思うようになった、窓の外を見ると木があり小鳥が来る、「小鳥なんて初めてしみじみ見たけどね、本当にあんなのがよくできたねぇ」、しかし、人間はこの美しい世界にわずか80年ほど滞在することを許されているだけであとは死なないといけない、そういう人生をわずか20歳や30歳で絶ってしまうというのは、「どうしてそうなっちゃうのか」…と。

以上のような最近の講演、インタビューに加えて最後には一九七〇年十月から十二月にかけての日記が抄録されている。「水俣病を告発する会」や三島事件への言及もあり、当時の空気感が伝わる。（N）

◆2000円・四六判・226頁・**弦書房**・福岡・202111刊・ISBN9784863292376

＊

honto
ネット通販で地方・小出版流通センター扱い
本がご購入いただけます。
hontoではお客様の読書スタイルにあわせて
電子書籍でも紙の本でもご購入でき、hontoポイントは
ネットでも書店でも使えて、貯められます。
地方・小出版流通センター扱いのご当地本もネットで
ご購入いただけます。
くわしくは honto.jp へアクセスください。
honto.jp

祝！大谷翔平ア・リーグMVP ☆☆☆

「特別報道写真集　大谷翔平２０２１　リアル二刀流の軌跡」

大谷翔平選手は今シーズン、ベーブ・ルース以来となる「リアル二刀流」に取り組み、全米で「大谷フィーバー」を巻き起こしました。９勝４６本塁打をすべて写真に収め、歴史的シーズンを振り返る完全保存版として発刊１しました。

□定価　1430円（本体1300円＋税）
□ ISBN　978-4-87201-839-4
□体裁　Ａ４判オールカラー
　　136ページ
□岩手日報社刊
・主な内容
　巻頭ハイライト
　前半戦（１号本塁打～３３号本塁打）
　オールスター史上初の投打出場
　後半戦（３４号本塁打～最終戦）
　出場１５８試合全成績
（地方・小出版流通センターＨＰ新刊近刊案内2021.10掲載ページより）

＊

「大谷翔平　挑戦」

岩手日報社では米大リーグエンゼルス入りを決めた大谷翔平選手の歩みを振り返る「大谷翔平　挑戦」（定価1,404円＝本体1,300円＋税）を発行しました。

本県で18年間礎を築き、北海道で５年間技を磨き、米大リーグエンゼルス入りを決めた大谷選手。花巻東高３年時に球速160キロをマーク、プロ野球日本ハムでは投打の二刀流でファンを魅了し、日本一になりました。そ

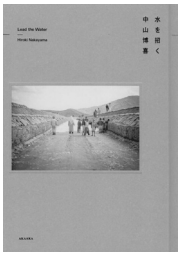
して岩手県人初の米大リーガーとなるまでの歩みを、これまで取材をしてきた弊社記者があらためて記事にしました。

「大谷が変えた５つの常識」をまとめた記事やこれまでの成績、「翔平を語る」として日本ハムの栗山英樹監督と花巻東高の佐々木洋監督の特集のほか、数多くの写真を収録予定です。岩手県人初の米大リーガーの軌跡をまとめた記念の１冊です。

□体裁　A4判96ページ、オールカラー
□定価　1,404円（本体1,300円＋税）
□ ISBN978-4-87201-829-5
□岩手日報社刊
（地方・小出版流通センターＨＰ新刊近刊案内2018.1掲載ページより）

＼話題書／《地方・小出版流通センター通信No.1459より》

たまに全国紙の夕刊の一面に大きく報じられる本があります。先日（11月22日・火曜日）の朝日新聞夕刊のペシャワール会の中村哲さんのアフガニスタンでの活動を撮った写真集の記事もそれでした。



中村医師と現地で５年間一緒に活動した、中山博喜氏の撮影した６千枚の写真から６０点を選びまとめられた**「写真集　水を招く」**（本体価格2700円、978-4-86541-138-6、赤々舎刊）の場合、翌日から多くの問い合せが入りました。夕刊でこれほど反響があることは驚きました。

＊

この４月に亡くなった作家・立花隆さんは原爆で崩壊した長崎医科大学病院で生れました。長崎に２年住んだ後に父親の仕事の関係で北京へ。そこで終戦を迎えて引揚げて水戸に住みました。死ぬまで生れた町・長崎との関係は大事にしていて、頻繁に訪れています。長崎文献社編・刊**「立花隆　長崎を語る」**（本体価格1,300円、978-4-88851-366-1）は、生れた地との

関わり合いを編んだ企画。立花さんの長崎に関わる講演と著述を収録するとともに、「私の会った立花隆の実像」として吉田文彦・長崎大学核兵器廃絶研究センター長はじめ長崎で知り合った４氏の立花隆像、そして「立花隆の家族史　ルーツを長崎に求める理由」は地元、長崎との思いが伝わります。

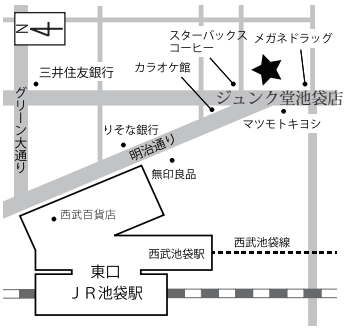
ジュンク堂書店
淳久堂書店

池袋本店
営業時間：月～土 / 午前10時～午後11時
日・祝 / 午前10時～午後10時

池袋であなたのふるさとに帰ってみませんか？

９階「ふるさとの棚」では、
地方・小出版流通センター扱いの
ご当地本を幅広く取り揃え、皆様の
お越しをお待ちしております。

〒171-0022
東京都豊島区南池袋2-15-5
TEL　03-5956-6111
http://www.junkudo.co.jp

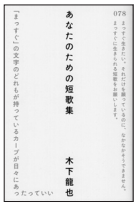


売行良好書

期間：2021年11月15日～12月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

［出荷センター扱い］

(1)『特別報道写真集　大谷翔平２０２１　リアル二刀流の軌跡』1300円・岩手日報社　(2)『立花隆　長崎を語る』1300円・長崎文献社　(3)『絵の旅人　安野光雅』2000円・ブック・グローブ社　(4)『あなたのための短歌集』1700円・ナナロク社　(5)『東京の森のカフェ』1300円・書肆侃侃房　(6)『大谷翔平　挑戦』1300円・岩手日報社　(7)『肩書のない人生』2000円・弦書房　(8)『東西寄席演芸家名鑑２』2000円・東京かわら版　(9)『現代語訳　上井覚兼日記２』1800円・ヒムカ出版　(10)『ゾンビハムスターねずこ』1400円・リーブル出版　(11)『下野猟師伝　聞き書き　猟師たちの物語』1800円・随想舎　(12)『アイヌモシリ【静かな大地＝北海道】に生きて』2600円・寿郎社　(13)『地魚は今・・・ルポ漁』1900円・弦書房



［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］

(1)『本の雑誌 Ｎｏ．４６３ ２０２２年１月号』815円・本の雑誌社　(2)『昭和プロレスマガジン　５６』909円・昭和プロレス研究室　(3)『おすすめ文庫王国２０２２』800円・本の雑誌社　(4)『東京かわら版　Ｎｏ．５８１　２０２１年１２月号』545円・東京かわら版　(5)『音楽』1800円・ナナロク社　(6)『天才による凡人のための短歌教室』1200円・ナナロク社　(7)『あなたのための短歌集』1700円・ナナロク社　(8)『古本屋的！』2700円・本の雑誌社　(9)『葛原妙子歌集』2000円・書肆侃侃房　(10)『特別報道写真集 大谷翔平２０２１』1300円・岩手日報社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『葛原妙子歌集』2000円・書肆侃侃房　(2)『博物学者　佐藤清明の世界』900円・日本文教出版　(3)『立山の賦』3000円・桂書房　(4)『現代語訳　上井覚兼日記２』1800円・ヒムカ出版　(5)『福澤諭吉と丸山眞男』8000円・北海道大学出版会　(6)『秋田藩大坂詰勘定奉行の秘密』1500円・秋田文化出版　(7)『ジオパーク秩父　公式ガイドブック　秩父に息づく大地の記憶』1500円・さきたま出版会　(8)『大谷翔平　挑戦』1300円・岩手日報社　(9)『出雲王国とヤマト政権』2250円・大元出版　(10)『検証温暖化』2500円・不知火書房　(11)『暗号技術を支える数学　第２版』2500円・弘前大学出版会　(12)『アイヌからみた北海道１５０年』1600円・北海道大学出版会　(13)『下総原氏 高城氏の歴史　下』1400円・たけしま出版

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

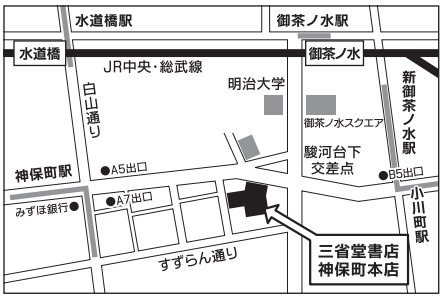
▼第24回日本自費出版文化賞の受賞作15点の内容や受賞者のことば、選考理由などを紹介する**【自費出版年鑑２０２１】**（NPO法人日本自費出版ネットワーク企画・本体価格2000円・ISBN9784883257447・サンライズ出版刊）が先日刊行されましたが、本書巻頭は9月7日に96歳で亡くなった歴史家でありました長年日本自費出版文化賞選考委員長を務められた色川大吉さんを追悼する内容になっています。自費出版ネットワーク代表理事の中山千夏氏による冒頭の〈刊行のことば〉は、「色川大吉さん逝去に寄せて」と題され、色川さんが提唱された「自分史」なくして自費出版文化は成立しなかったと述べています。それと本書によると10月に自費出版された色川さんの著書『不知火海民 衆史　上　論説篇』『不知火海民 衆史　下　聞き書き篇』が今回の自費出版文化賞の特別功労賞を受賞されたとのことです。この色川さんの著書の発行元である揺籃社・山崎領太郎氏が寄稿された「色川先生は希望した本を希望した形にして旅立った」を読むと自費出版で刊行された経緯がわかります。

＊　＊　＊

※本誌2021年10月号トピックス欄で『不知火海民 衆史　上　論説篇』『不知火海民衆史　下　聞き書き篇』について色川さんの「最期の著書となった」との事実と異なる表現がありました。訂正してお詫びいたします。

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店　営業のごあんない

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。